



コールサック(石炭^{ぶくろ}袋)

みやざわけんじ ぎんがてつどう さいご あらわ
宮澤賢治の「銀河鉄道の夜」で、旅の最後に現れる、
深くて黒い冥界^{めいかい}に通じる穴^{あな}として描かれる石炭袋(コー
ルサック:coalsack)は、南十字星のすぐわきにある巨大^{きよだい}
な暗黒星雲の名前です。日本からは見えないので、物語
の題材^{だいざい}としては不気味な感じ^{ぶきみ}がより醸し出せたのでしょ
うか。ここは^{こうかい}大航海時代(15世紀頃)^{せいきころ}から知られていま
したが、天の川の中で星のない部分は他にもたくさんあ
り、19世紀にはホール(穴)とか、ブラックホール(黒い
穴)と呼ばれるようになりました。ブラックホールといっ
ても、^{げんざい}現在のわれわれが知っているブラックホール^{ちが}とは違
い、^{たん}単に黒い穴というだけのネーミングです。

ブラックホールは、^{くうそ}ここだけ星がない空疎な空間では
ないかと考えられました。黒い部分^{そんざい}の存在に気づき、
^{きろく}記録したハーシェル親子は、「空いたスペース」(Vacancy Place)と呼んでいます。しか
し、「なぜここにだけ星がないのか？」は当時としては、^と解けない謎^{なぞ}でした。

19世紀^{すえ}の末頃から20世紀^{はじ}初めにかけて、アメリカの天文学者バーナードは、ここには黒
い雲^{はいご}があって背後^{かく}の星^{ちが}を隠しているに違いないと考えるようになりました。彼は、黒い穴^{かれ}の
周囲^{しゅうい}には散光星雲^{さんこう}が多くあること、星の明るさと数の分布^{ぶんぷ}がかなり不自然^{ふしぜん}であることを丹念^{たんねん}
に調べて、暗黒星雲^{そんざい}の存在を予言したのです。

いまでは、コールサックは冷たいチリが豊富^{つめ}に存在^{ほうふ}する「暗黒星雲」であることが分かり、
内部では多くの星が作られているのではないかと考えるようになりました。



天の川の中でかなり目立ちます。

Credit:K. Don and NOIRLab/[NSF](#)/AURA